

令和6年度 千葉県における「くろまぐろ（小型魚）及び（大型魚）」に係る資源管理協定の取組の効果の検証結果（中間）

（１）千葉県におけるクロマグロの漁業実態

千葉県におけるクロマグロは、銚子沖から内房海域にかけて漁獲があり、大臣許可漁業を除く漁法としては、くろまぐろ（小型魚）は主にひき縄漁業及び定置漁業、くろまぐろ（大型魚）は主にはえ縄漁業、ひき縄漁業及び定置漁業となっている。資源状況の悪化から国際的な枠組みにより国ごとに漁獲枠が決められており、千葉県においても平成 30 年 7 月から漁獲可能量（TAC）管理がなされている。千葉県においては、国から配分された数量を、千葉県資源管理方針に基づき漁業の種類別、地区別、期間別の割当量を設定し、漁業者は当該数量を遵守している。

（２）資源管理の目標及び目標達成のための具体的な取組等

①目標（資源管理基本方針に定める目標）

- ・暫定回復目標 歴史的中間値（昭和 27 年（1952 年）から平成 26 年（2014 年）までの親魚資源量の中間値をいう。）
- ・次期回復目標 若齢魚の資源への加入水準が平均的であり、かつ、漁獲がないと仮定した場合の親魚資源量の 20 パーセント

②該当する資源管理協定

「くろまぐろ（小型魚）及び（大型魚）」に係る資源管理協定（以下、協定という。）は、下表のとおりで、18 漁協所属の約 280 名が、くろまぐろ（小型魚）及び（大型魚）を対象とした、それぞれの協定に参加しており、このうち本検証の対象となるのは、7 協定となっている。

協定	備考	協定	備考	協定	備考	協定	備考
船橋市	◎	館山		東安房（天津小湊）	◎	夷隅東部	
天羽		西岬	◎	鴨川市		九十九里	
鋸南町保田・波左間		東安房（本所）	◎	新勝浦市		海匝	
鋸南町勝山	◎	東安房（白浜）	◎	勝浦		銚子市	
岩井富浦		東安房（和田）	◎	御宿岩和田			

◎ 本検証の対象協定

③自主的取組

漁業の種類	資源管理の取組	取組の内容	備考（該当する協定）
共通	◎ 強度な資源管理	資源管理基本方針及び千葉県資源管理方針に定められたくろまぐろ（小型魚）及びくろまぐろ（大型魚）の内容を順守するとともに、漁業法第 32 条第 2 項の規定により千葉県知事が行う助言、指導又は勧告に関する運用指針（以下「運用指針」という。）に基づく助言、指導又は勧告の内容を実施するものとする。	全協定
まき網漁業	◎ 休漁期間の設定	①中型まき網 2 月、小型まき網 4 月 ②8 月下旬から 9 月中旬のうち 2 週間程度	①船橋市 ②天津・小湊
	◎ 休漁日の設定	①週 1 回 ②第 1・第 3 日曜日	①船橋市 ②天津・小湊
定置漁業	◎ 休漁期間の設定	①6 から 12 月の間、大型定置、小型定置それぞれ合計約 2 週間 ②8 から 12 月のうち約 2 週間 ③8 から 9 月のうち約 2 週間 ④9 月中旬頃から 1 ヶ月程度	①鋸南町勝山 ②西岬 ③東安房（本所） ④東安房（和田）
はえ縄漁業	◎ 休漁日の設定	第 1・3 土曜日	東安房（天津・小湊）
クロマグロ ひき縄漁業	上記、共通と同様。		鋸南町勝山、東安房（白浜）、東安房（和田）、東安房（天津・小湊）

◎ 協定に記載されている取組

上記取組の他、ひき縄漁業、はえ縄漁業、定置漁業それぞれの地域関係漁業者による話し合いが行われ、漁獲可能量を遵守し、かつ、限られた数量を有効に利用するため、消化率等に応じた漁獲制限、漁獲時期及び漁獲サイズ制限等、状況に応じた様々な取組の実施・検討を行っている。

（３）資源管理の効果の検証

本県におけるクロマグロの漁獲量は、来遊状況に左右され年変動が大きい傾向にある。直近 5 か年の平均（2018 年～2022 年）は 93.6 トンとなっているが、漁獲可能量の設定により漁獲量の上限が定められていることから、漁獲量は概ね頭打ちになっている（図 1）。

北太平洋まぐろ類国際科学委員会（ISC）の令和 6 年(2024)度資源評価によると、2010 年頃からクロマグロの産卵資源量は劇的に回復（図 2）し、2021 年に次期回復目標を達成している。

本県におけるクロマグロひき縄及びはえ縄漁業による CPUE は、2018 年以降、40～50 キログラム/隻・日程度で推移しており、漁獲可能量の遵守により概ね一定で維持されているものと考えられる（図 3）。また、協定参加者による検証（以下、「自己点検」という。）では、漁獲量及び CPUE（単位努力量あたり漁獲量）は、7 協定全てで維持又は増加と判断しており、国の資源評価の結果と概ね一致している。

また、本県における直近 5 か年のクロマグロの平均単価は、TAC 管理開始前の 3 年間（2015～2017 年）は、1,784 円/キログラムであったが、TAC 管理期間中の直近 3 年間（2020～2022 年）は、2,660 円/キログラムとなっている（図 4）。各協定の自己点検では、クロマグロについて記載のあった 7 協定中全てで魚価（単価）は維持又は上昇と判断している。

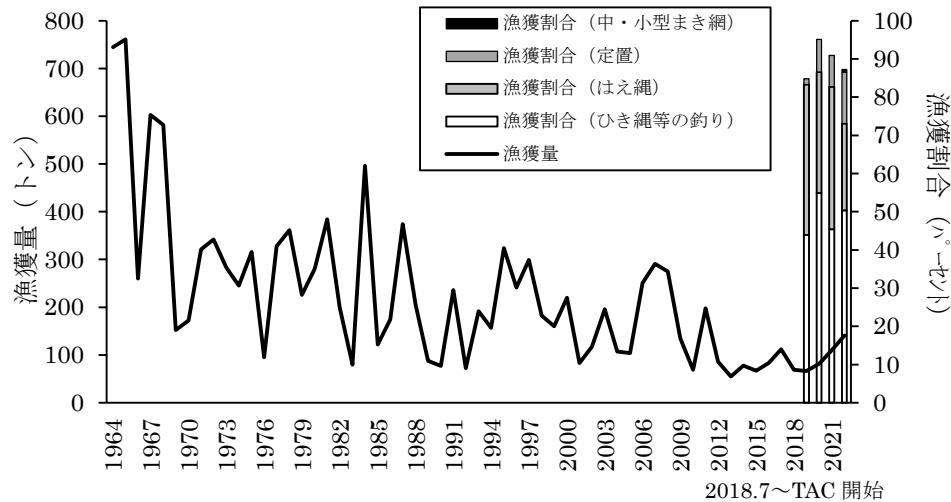


図1 千葉県におけるクロマグロの漁獲量と漁業種類別漁獲割合
(海面漁業生産統計調査)

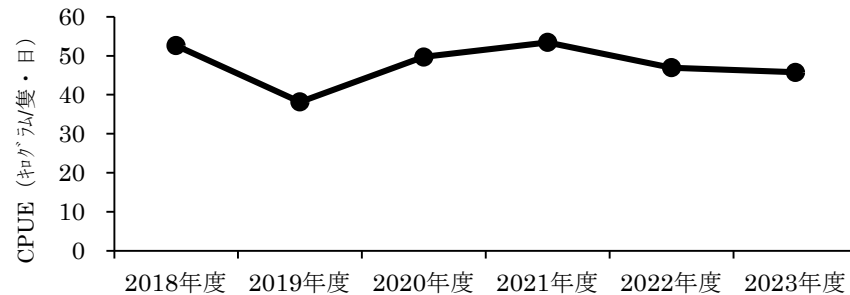


図3 千葉県におけるひき縄漁業及びはえ縄漁業の CPUE
(千葉県調べ)

2-1. 最新（2024年）の資源評価結果（将来予測）

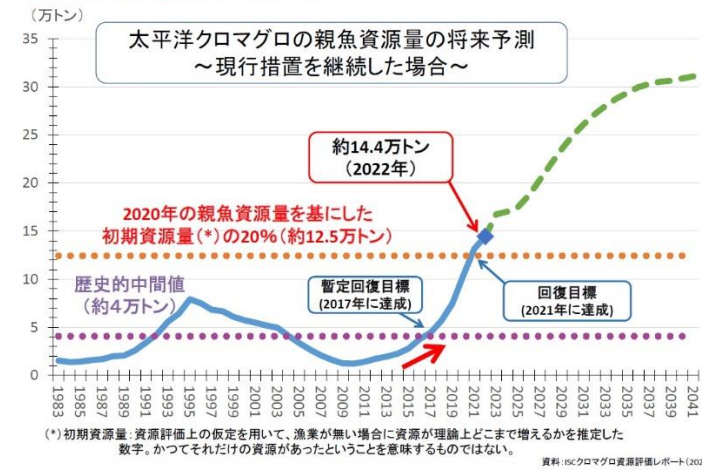


図2 ISC による資源評価結果

(水産庁 HP 令和 6 年(2024)6 月 4 日中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)
北小委員会等に向けた太平洋クロマグロの資源状況等に関する説明会資料)

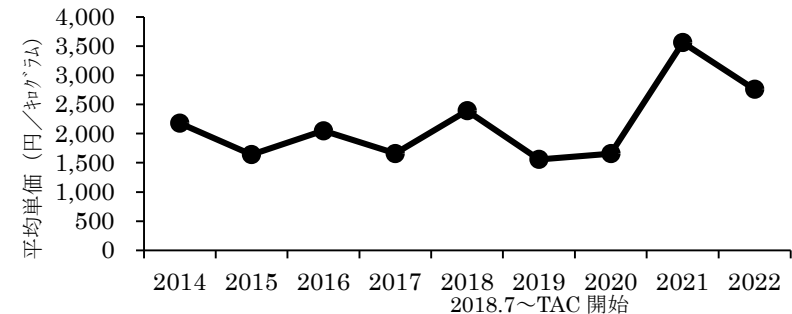


図4 千葉県におけるクロマグロの平均単価
(海面漁業生産統計調査及び同漁業産出額より作成)

(4) 効果を高めるための協定の改善・高度化の検討

近年、資源の増加に伴い本県への来遊量は増加しているが、資源状況に見合った十分な漁獲可能性がないため、混獲魚の放流や漁場回避を余儀なくされる等、漁業活動への影響が極めて大きくなっている。自己点検では、7 協定中 5 協定で取組の効果があると判断しており、近年の資源量の増加は、資源管理の取組による成果が大きいものと考えられる。また、近年の高単価は、漁獲量の抑制や小型魚の保護による副次的な効果があると考えられる。以上から、今後も国際的な資源評価結果に基づいた漁獲可能性を遵守し、限られた漁獲可能性を有効に利用するため、自主的取組を併せて実施することが重要と考えられる。